

JAPAN GAME FISH ASSOCIATION



JGFA NEWS

FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING

Vol.44/No.3
AUTUMN 2023

THE LAST PAPER ISSUE



豪州のスポーツフィッシング

Julian Pepperell Interview

JIBT 報告

Billfish Tournament Report

IGFA ルールページ

IGFA Rule Quiz

And more

www.jgfa.or.jp

[会報電子化に伴うメールアドレスご登録の最終お願い]



返信締切日:2023年9月末日

協会の活動および会員サービスにおいて、電子メディアの必須度が年々増し続けていることを受け、効率的なご連絡手段としてEメールも活用することになりました。

お手数ですが、会報の住所ラベルいちばん下に6桁ないし7桁で印字されている皆様の会員番号とお名前、Eメールアドレスを、右記いずれかの方法によりご登録をお願いいたします。(前回登録済みの方、JGFA役員、理事、アンバサダーの皆様はすでに情報がありますのでご対応は不要です)

(1)QRコードを活用される場合:

コードを携帯端末で読み込み、表示されるフォームに必要事項をご記入ください。



収集しました情報は:

- 1) 厳重なセキュリティ手段を活用して管理します。
- 2) 事業目的の遂行のために必要な範囲でのみ利用します。
- 3) 本人への同意なく第三者へ開示・提供いたしません。

(2)協会アドレス宛てに直接ご返信いただく場合:

標題を「○○メールアドレス」(○○は貴殿のお名前)としたうえで、以下の宛先まで、会員番号とお名前、Eメールアドレスをお知らせください。

info@jgfa.or.jp

紙の会報発行はこれが最後になります。

昨今における物価の高騰および物流の不安定化により、ジャパングームフィッシュ協会としても会報のありかたを見直すことを余儀なくされました。また、森林資源を使用する紙を使い続けて良いのかという社会倫理的問題もございます。同様の状況下にあったインターナショナルゲームフィッシュ協会 (IGFA) も、数年前から会報は完全電子化されております。

上記を受け、ジャパングームフィッシュ協会の最高議決機関である理事会は、会報の電子配信を承認いたしました。協会の立ち上げ時から発行されてきた冊子ですが、次号(2023年11月末発行)からはご登録いただいたメールアドレス宛へ、電子的に配信いたします。

過去に発行された号のアーカイブ化も進みますので、皆様にとっての利便性は大幅に向上するものと思われます。なにとぞご理解のほどをお願い致しますとともに、メールアドレスをまだご登録されていない皆様は、この機会にぜひご登録をお願い致します。

なお、JGFA イヤーブックは従来どおり、紙の本としての発行を継続いたします。

お詫びと訂正

◆前号のJGFA NEWS (Vol.44/No.2)で間違いがありましたので、この場をお借りして訂正とお詫びを申し上げます。

- P10 日本記録写真とコメントページにて
・シロアマダイ3.38kg 松本修さんを福岡勝さんと記載
・ハクセイハギ0.77kg 坂本幸博さんを西野勇馬さんと記載

◆今年度のJGFAイヤーブックで間違いがあり、この場をお借りして訂正とお詫びを申し上げます。

- P23 世界記録認定のページにて
・奥山文弥さん・オオクチバス叉長52cmを誤って掲載いたしました
- P101 船からのラインクラス「スズキ」において
・中井遥子さん・8kg(16lb)、5.40kgにおいて世界記録マーク★が抜けておりました
- P124 ジュニア日本記録において
・カラフトマスを釣り上げた吉田和史さんのクラブをフィッシュ&フィンズと記載、正しくはC9(クラウドナイン)でした

TABLE OF CONTENTS

巻頭のことば 01

ジュリアン・ペパレル博士インタビュー 03

RECORD PAGE 08

IGFA ルールクイズ 13

下田カジキ釣り大会レポート 15



Cover photography by Tomonori Higashi



海洋生物学者が見える未来

Leading Marine Scientists Visited JIBT

JIBTゲスト、ジュリアン・ペパレル博士とジョン・ディップロック氏に聞く

ジュリアン・ペパレル博士、またの名をドクター・ルアー。

本人が釣りを好むという理由の他に、その姓が「ラパラ」にも聞こえるということでつけたあだ名です。

世界的なカジキ類の研究者として、その分野では知らない人はいない存在であるペパレル博士に、釣りを軸としたさまざまな話を伺いました。



ジュリアン・ペパレル博士



ジョン・ディップロックさん

JGFA (以下 JG) ペパレル博士、今回は国際カジキ釣り大会にゲストとして来て頂き、ありがとうございます。実際に釣り上げられた魚のまえて、観客の皆様に対してクロカジキに関する驚くべき事実を話していただくという機会はなかなかないので、とてもよかったと思います。

ジュリアン・ペパレル (以下 P) よい大会ですね、市民の方との距離感も素晴らしいです。キャッチされた100kgオーバーのクロカジキがほんの2歳くらいだという事実には、皆さん驚かれています



2019年にIGFA 釣り殿堂入りを果たした人

たね。ちなみに、今年のタグ&リリース率はどれくらいでした？

JG 例年よりすこし低くて、60%程でした。今回の旅は、JIBT を視察することだけが目的だったのですか？

P もちろん、私は日本が大好きで、世界的に有名になっているこの大会を実際に体験したいと思っていたのですが、本の執筆のために取材をするのが最大の目的なんです。

JG カジキの本ですか？

P そうです。きつと厚い本になりますよ。

JG そのお話を伺う前に、ペパレル博士とジョン・ディップロックさんの略歴について、簡単にお聞きしておきたいのですが、いいですか？

P もちろん。私はメルボルンの海沿いに生まれて育ちました。子供の頃から生き物は好きでした。途中で天文学に興味を持ちましたがあまり協道にはそれ、シドニー大学での博士過程も海洋生物学。25歳で得た最初のポストは、

ニューサウスウェールズ州漁業局「海釣り部門担当の生物学者」というもの。かなり革命的な取り組みでした。漁業と釣りの捕獲量バランスを取ろうとする州政府の努力の一環でした。私はまず、コチを初めとする沿岸の釣り対象魚にタグ装着調査を行いました。

JG オーストラリアでも、コチは釣り対象魚として人気があるんですね？

P 釣っても食べても、楽しいですからね。誰もにも知らなかったのが、データを集めるのはやりがいがありましたよ。それから1977年くらいにカジキ類に出会い、人生が変わりました。当時、オーストラリアでシロカジキ(ブラックマーリン)に取り組んでいる研究者はほぼいませんでしたから、エキスパートになることができました。ニューサウスウェールズ州漁業局には、他にも若い生物学者たちがたくさん雇用されていて、ジョンもその中の1人だったんです。

ジョン・ディップロック (以下 D) 70年代後半から80年代、90年代にかけては水産資源に関する研究の急速な拡大期で、私たちはその中にきちんとはまることができました。

P その頃、カジキのタギングプログラムも開始されました。漁業局の上司が「やるよ」というので「私は他の研究で手一杯に近いんですけど」と返すと「君しかいなんだよ」という一言で決定。いろんなトーナメントに顔を出して、タギングによる追跡調査の大事さを説きました。

D 当時の人たちは全員「頭おかしいのか？ そんなことして何になる？」と言いましたよ。しかし、再捕が起ころいはじめるのと釣り人の態度も変わってきました。実際のデータは興味深いですからね。

P それはうまく定着し、アマチュアの間

に意識を高めることができたのです。昨年段階で、釣り人によってタグ装着された魚の総数は50万尾にのぼります。カジキ類へのタグ装着数は、通算14万尾に達しました。

JG それはなんというか……すごい数としか言えませんね。

P ジョンと私は、それぞれ別の専門を持つ同僚として15年くらい勤めたのですが、状況が変わって私は退職し、コンサルタント会社を作りました。釣り雑誌などにもコラムを長い間連載しましたよ。ジョンもその後で退職し、同じくフリーランスのコンサルタントになりました。

D いまは、海に沈める魚礁の設計を主な業務にしています。いろんな魚にとって利用しやすいものを作るのは、なかなか難しく奥が深いんですよ。海底何キロメートルにもわたって設置する大規模なものにも取り組んでいます。私たちは共通点が多いもので、キャリアが分岐していったあとも緊密に連絡を取り、こんなふうにいっしょに旅をしたりするのです。魚とビール、そして世界各地の食べ物が2人を結びつけているんです(笑)。

P いまでは、各研究機関や大学などと共同でプロジェクトをやっています。カジキとマグロ類の資源量評価と管理手法に関するものをはじめ、さまざまな委員会にも所属して意見を言わせてもらっています。もちろん私の立場は、原則的に釣り人サイドのものです。

JG フリーランスになって、よかったですか？

P 自由度が増しました。私の情熱であるカジキについて、より時間を費やして研究できています。世界各地で開催され、6回を数える国際カジキシンポジウムにも、すべて出席できました。直近は、IGFAがホストになって2016年に開催したんですよ。

JG JGFAの顧問を長くお勤めいただいた、京都大学の中村泉先生とは、親しくおつきあいされていたんですよね？そのきっかけなどをお聞かせいただけませんか？

P 駆け出しの研究者だった頃、ケアンズで開催されたカジキ釣り大会にはじ

めて参加したときに中村さんと会ったんです。彼は、カジキ類の分類をテーマとした博士論文を書き上げるためにオーストラリアに滞在中でした。釣れたシロカジキを土中に埋め、翌年に掘り出して骨格標本にするなどということをしていましたね。すぐに気が合って、お互いに行き来する友達になりました。「俺は日本よりも海外のほうが肌に合っていて、リラックスできる」とよく言っていました。その翌年たしか1979年には日本に招いてくれましたよ。活動の基礎である京都大学の舞鶴水産実験所に滞在して、学生たちと交流しました。

JG たしか「イジー」と呼んでいらっしやいましたよね？

P 「泉さん」ですからね。彼の博士号論文の英語版は、私が通読して直してあげたんです。巨大な論文でしたが、私にとっては大きな荣誉だと思いました。バショウカジキとクロカジキは、大西洋と太平洋で同一種でも形態的な特徴が異なることを発表したんですね。遺伝子解析によると同一種ということが確認されているんですが、IGFAはいまでもそれを別エントリーにしています。

JG なるほど。

P 10年ほど前、1日だけ東京に立ち寄ることができたので銀座を友達と歩いていると、偶然にも中村さん夫妻に会ったんですよ！すばらしい夕食となりました。

中村泉さんとの出会いとご縁

た。その後も、ずっと連絡はしていたのですが、数年前に中村さんは亡くなられたと聞いて寂しい思いです。世界じゅうで尊敬されている分類学者ですよ。

JG カジキ釣りに限らず、オーストラリアの釣り全般について教えてください。コロナ禍の前後で、状況は変わりましたか？

P ミートフィッシャーマン(釣った魚を持って帰って食べる人)の数はコロナ禍のあとで増えたような気がします。それよりも、オーストラリアは時間をかけ、釣り魚の持ち帰り制限を強化してきました。バックリミットですね。各州が、最小体長制限やスロットリミット(最小体長と最大体長の両方を設定するやりかた)を設定しています。いまは皆さんがその効果を納得し、異論を唱える人は少なくなったと思いますが、定着するまでには15年以上かかりましたよ。ニューサウスウェールズ州に関していえば、どんな魚種であっても、1日に1人が持って帰ることのできる数は20尾までです。

JG アングラーが永続的に釣りを楽しむシステムを稼働させるために、もっとも重要と思われるものはなんですか？

P ライセンスシステムですね。オーストラリアはそれで生み出された原資を使い、ルール遵守の監視、タギングなどの調査、稚魚の放流、研究機関への資金



銀座での出会い。中村泉さんご夫妻、下瀬環さん(右端)らと



1979年、1000ポンドオーバーのシロカジキを調査

提供、漁師たちからの漁業権の買い取りなどが行われています。趣味の釣りのための、インフラストラクチャー整備ですね。

JG 具体的に、いったいつ頃からそのようなシステムが回り始めたのですか？

D 2001年です。それ以前は、淡水のライセンスシステムしか存在していませんでした。海の釣り人に、システムの利点を説得するには長い時間がかかりました。チャーターボート船長の資格試験を厳密にしたのも、その頃でした。以前は誰でも遊漁船の船長になれたので、場所によっては過当競争と魚資源の枯渇が起こっていましたね。

P 最近の調査では、オーストラリアに

住んでいる成人のじつに20%が年に1回以上は趣味で釣りに行くので、その人たちがもたらす環境への影響はきわめて甚大なのです。場合によっては、漁業よりも大きな影響を持ちます。日本には、体長制限や持ち帰り制限、ライセンスシステムは存在しないんですね？

JG 淡水では入漁料制度があります。川の管理は、各漁協で細切れにされていますので、入漁券を買うのが手間ですが、インターネット購入ができるシステムを導入する業者が出現したり、県内すべての漁協に適用できる共通遊漁券が出てきたりしていますので、買う側の利便性には進歩が見られます。海はまだこれからですね……

P ニュースサウスウェールズ州の海釣り

の話に戻すと、シロカジキとクロカジキ、そしてマカジキはとても重要な魚ですから、釣り人たちは政治に影響を与えようとロビー活動を行ってきました。オーストラリア海域で、かつて日本の漁船は漁獲枠を正式に取得して活発に活動し、カジキ類を獲っていました。ミナミマグロ、キハダ、ビンナガといったマグロ類とともに、カジキ類で商業価値があるのは身のおいしいマカジキですね。するとオーストラリアの漁業者たちが「私たちにも獲らせて欲しい」と言い出し、釣り人たちは「日本の漁船に獲らせないでくれ」と言い出しました。釣り人たちは、人口の20%もいますから強力な政治力を発揮する潜在力を持っています。彼らは各政党に「私たちの趣味の釣りに関して、あなたがたの立場はどんなものですか」と確認を始めた。もはや無視できない政治力を公使できる立場になったのです。ただし、彼らの主張は必ずしも資源保全を念頭においたものではなく、釣りをする権利を求めるだけの場合も多いことには注意しておく必要があります。グループによって、主張にはばらつきがありますが、各州には、釣り人の意見を政策や規則に反映するための諮問委員会が設置されていて、そこで調整が行われています。

JG ライセンスの売上は、州政府内でのどのように配分されるのでしょうか？

P すべて、釣りの質を維持向上させるために使うべしと規定されており、他の部門に流れることはありません。ニューサウスウェールズ州だけで、1年に5000万ドル(約47億円)ほどの金額になるでしょう。

JG ふむ……このシステムが、2001年に始まった比較的新しいものだというのは心強いですね。近過去における成功例として、魚文化が異なる日本でも、大いに参考になるのではないのでしょうか。話を大きく戻して、ペパレルさんがいま取り組んでいる本について、教えてくださいませんか？

P これも、カジキのタグ&リリースに大きく関係しているんですよ。カジキにタグをつけると、始点が定まります。その魚が再捕されると、とりあえずの終点が決まります。移動の矢印が引けるわ

ライセンスシステムが駆動する遊漁管理

世界のカジキ文化を渉猟する旅

けですね。私たちのデータはもちろんオーストラリア各地を基点としますが、世界各地に向けて矢印が出て行きます。そんな矢印の終点にある各地の文化を知り、釣り人や漁師さんたちに話を聞くのは興味深いし、読者の皆さんもカジキのことに思いを馳せてくれるだろうと考えたのです。

D ジュリアンがお酒の席でその企画を話してくれた時、仲間の1人も私も同時に言いましたよ。「いっしょに行く!」

P というわけで、2人は日本に来たというわけです。

JG 矢印の終点には、どんな国がありますか?

P 日本はもちろんですがインドネシア、パプアニューギニア、インド、スリランカ、果ては太平洋を横切ってコスタリカ。カジキは壮大な旅をするんです。矢印をたどっていくと、いろんな興味深い所に行きたくなるんですが、とりあえず日本の、JIBTとカジキ文化を取材するこの旅で終わりです。残念ですが、どこかで止めないといけないんでね……。厚い本になりそうですよ!

JG 世界各地で、面白いエピソードに出会われたことでしょうか。

P オーストラリアのグレートバリアリーフあたりでタグ装着されたシロカジキは、パプアニューギニアあたりでよく再捕されます。地図を見てもうと、かなり近いんです。現地に行くと漁師さんたちに会い、話を聞くと、唯一のサイズ基準が「私のカヌー」なんです。「これまで釣り上げた、いちばん大きなマーリンはどれくらいでしたか?」「俺のカヌーよりそうとう大きかったよ!」という感じですね(笑)。

JG 漁師さんの持っているカヌーはそれぞれ大きさがバラバラ、と。

P そういうことです。パプアでは、ジャンプしてカヌーに飛び込んできたバショウカジキの吻が突き刺さった漁師を治療した医者にも会いましたよ。心臓の位置をかるうじてかすめているけれども胸を吻が貫通し、肺も破れているという状態。なんとか命は助けたと言っていました。そんな事故の可能性はつねにありますから、カジキ類は畏れの対象であり、かつ大量のタンパク質をもたらしてく

れる食材としても求められてもいるわけです。命を奪い、かつ与える存在というわけで、ほぼ神格化されているといってもいいでしょうね。

D グアムの北、ロタ島への旅も、とても面白かったよね。

P その洞窟遺跡では、カジキ類やマグロ類、シイラ類の骨が出土するんですが、それに人骨もすこしだけ混じっているというんです。現地の人類学者にお願いして、案内と説明をしてもらおうと、ということでした。ロタ周辺のカジキ漁業は、少なくとも三千年前に遡ると。しかし釣鉤の素材がなにもないので、何を使ったかという人骨なんです。骨角器といわれるものの一形態ですね。ヨーロッパ人がマリアナ諸島にブタを持ち込むずっと前の時代で、骨が釣鉤につかえそうな哺乳類はほかにいない。つまりどうしていたかということ、埋葬されていた先祖の骨を掘り出し、釣鉤に必要なところを使わせてもらい、残りをまた埋葬する。釣鉤は、まさにご先祖様でもあるので、とても大事に扱う。感動的な話だと思いませんか?

JG そうですね、驚きます。

P ロタでは、もう1つ驚きがありました。私が知る限り最古のカジキの壁画を見たんです。かなり荒っぽく、スケッチレベルのもんですが、確実にツノがある。第2次世界大戦中には日本軍が壕としてつかったものなので、いまは施錠されているけれど、科学者だからと頼み込んで見せてもらったんです。これも、少なくとも数千年まえのものだと結論づけられています。

JG 人に畏怖の気持ちを起こさせる、海の美しい生き物……

P そんな具合で、各地で集めたエピソードを紡いでいって、本を作るつもりなんです。その中心にあるのが、一本釣り漁業を含めたカジキ釣りなんです。タギング調査がこんなに広がりをもたらしてくれるなんて、想像もしていなかったんですけれどね。

JG 謎解きの手助けをするのと同時に、タグ&リリースは自分との同一化も体験させてくれると思います。タグを



生後数ヶ月のシロカジキの計測



アオチビキが釣れました



西オーストラリア、ブルームにて

MCR=最大コンタクト率という指標の提唱

打って離すと、釣り人はその魚に愛着を持つようになります。できれば生き延びて大きく成長し、どこかで見つかって欲しいと思うんですね。そんな「気持ちの進化」とでも呼ぶような効果は、魚資源の保全にとって、見逃せないものじゃないでしょうかね。

P あまり考えたことはなかったですが、たしかにユニークな指摘だと思います。さらなる浸透のためには、「気持ちの進化」はとても大事な要素かも知れません。オーストラリアでも、最初はタギングに対して疑り深かった人たちが、徐々に気持ちが変わってくるのを目にしました。研究者たちは資源管理の基礎に「最大持続生産量」(MSY)という考え方をしていますが、キャッチ&リリースやタグ&リリースに慣れ親しんだ人がさらに増えてくれば、「最大コンタクト率」(MCR)という考え方も、とうぜん取り入れていかなければならないと思います。フッキングやファイト、リリースに至らなくても、魚がルアーの後に姿を現し、「ジッ!」とバイトするならそれだけでもかなり興奮できる。

JG よくわかります。それがあると、次にやってくるだろう1尾への期待感が高まり、結果として体験がより深く、感動的になる。

P 身も蓋もない話にしてしまうと、資源を無駄に減らすことなく有形無形の利益を最大化することを目指そう、ということです。

JG もはや現代の釣りに必須のシステムだと思われるキャッチ&リリースに関

しては、いろんな側面が絡んできますし、あまりにその定着を急ぎすぎると弊害も出ると思われますが、少なくともその合理性は唱え続けたいです。

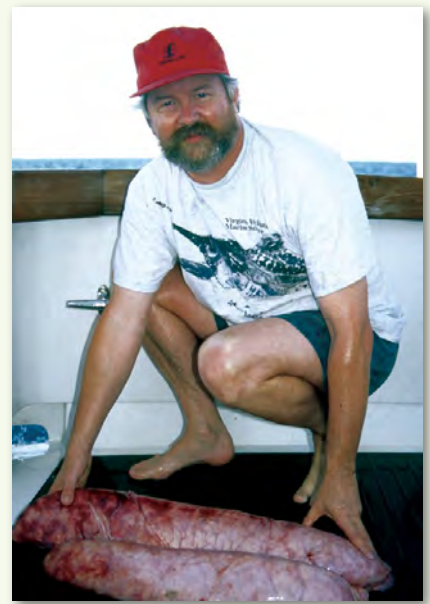
D 魚によってキャッチ&リリースの向き・不向きは異なるというのは事実ですが、繊細な種であっても注意ぶかい取り扱いをすれば生存率は大きく上がるんです。そんなデータを提示し、アンチの人たちを説得していくのは私たちの仕事でもあるでしょうね。

P カジキ類は、キャッチ&リリースがとても有効で、生存率はとても高い魚種です。サークルフックを使ってキャッチ&リリースされたニシマカジキ(ホワイターマリン)のリリース後生存率はほぼ100%というデータもあります。ミニ・コンピューターともいえるポップアップ・タグを装着してリリースすると、魚の行動が正確に記録されるわけですが、450尾のカジキを追跡した結果、リリース後生存率は86%であるとわかっています。

JG 一般市民向けとして意識改革のための情報発信、実際のタグ装着推進、そして釣りの意義を理解してくれる人を増やすキャンペーンなど、やることはたくさんありますが、ペパレル博士やディブロックさんをはじめ、世界各地で同じ思いを持っている人たちがたくさんいらっしゃるということに心を強くしています。これからもよろしく、本の早期完成を祈っております。

P がんばります!

(2023年7月22日 下田市にて)



グランダーマリンはつねにメス。その巨大な卵巣



豪州トーナメントで、持ち込まれた魚のデータを取る



カジキシノボジウムが開催された台湾にて



ポップアップ式衛星タグの準備をする博士

NEW JAPAN RECORD GALLERY

WR =世界記録 CR =キャッチ&リリース TR =タグ&リリース AL =オールタックル・レンジ記録 FAL =オールタックル・フライ・レンジ記録 W =女性 J =ジュニア 記録

※アカメ、イトウなどの環境省レッドデータブック記載種は、リリース前提での記録申請受付となります。

※コクチバスなどの外来魚の申請は外来生物法の規定にそって受け付けます。外来生物法では規定していないキャッチ&リリースについては、各都道府県でこれを禁じている水域もあり、持ち出しを禁止しているケースもありますので、これらに従うことといたします(2016年7月5日JGFA理事会決定)。

※タイリクスズギに関しては、オールタックル部門および10ポンドシーバスクラブ、年間フィッシングコンテストの対象として申請を受け付けることになりました(2020年4月1日より)。

お願い:記録申請時は、書類、紙焼き写真とともに高画質の写真データもご提出を!
大型魚のデータをできるだけ正確に保存するためです。ご協力をお願いいたします。メディアの形は問いません。

FRESHWATER <淡水の釣り>

<アマゴ(サツキマス)> TROUT, red-spotted masu / *Oncorhynchus masou macrostomus*

●M-8kg(16lb)クラス ●0.62kg ●広島県山県郡聖湖 ●2023/4/1 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<アマゴ(サツキマス)> TROUT, red-spotted masu / *Oncorhynchus masou macrostomus*

●M-10kg(20lb)クラス ●0.57kg ●広島県山県郡聖湖 ●2023/4/15 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-8kg(16lb)クラス ●4.24kg ●茨城県潮来市鰐川●2023/5/13●村田 脩●終身会員

CR

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-3kg(6lb)クラス ●3.72kg ●茨城県潮来市外浪逆浦 ●2023/5/7 ●村田 脩 ●終身会員

CR

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-2kg(4lb)クラス ●3.32kg ●茨城県潮来市外浪逆浦 ●2023/4/28 ●村田 脩 ●終身会員

CR

<アメリカナマズ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●M-1kg(2lb)クラス ●3.26kg ●茨城県常陸利根川 ●2023/6/8 ●椎名 幹 ●レギュラー会員

CR

<ブラウントラウト> TROUT, brown / *Salmo trutta*

●W-1kg(2lb)クラス ●1.33kg ●神奈川県芦ノ湖 ●2023/5/18 ●奥山 幸代 ●フィッシュ&フィンズ

CR W



田村 紘一
<アマゴ(サツキマス) 0.62kg>
向かい風が吹いたタイミングで
ジャークにきました



村田 脩
<アメリカナマズ3.32kg>
めっちゃ引いた!



椎名 幹
<アメリカナマズ3.26kg>
掛かった直後はアベレージサイズ
かと思いましたが、大きいのか動
かなくなりました。ギリギリのデ
ンションをかけながらファイトを続
けると、1時間程で抵抗を辞めた
かのようにネットに入りました



奥山 幸代
<ブラウントラウト1.33kg>
年越し野生化トラウトを
狙ってフィッシュオン。船べ
りに来てから粘りを見せた
綺麗なブラウンでした。捕
獲後すぐに桟橋に戻り検量
してリリースしました

SALTWATER FLY FISHING <海水のフライフィッシング>

<キチヌ> SEABREAM, yellowfin / *Acanthopagrus latus*

●M-1kg (2lb) クラス ●1.41kg ●広島県安芸郡海田町瀬野川 ●2023/6/3 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

CR

<キチヌ> SEABREAM, yellowfin / *Acanthopagrus latus*

●M-3kg (6lb) クラス ●1.02kg ●広島県安芸郡海田町瀬野川 ●2023/6/4 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

CR

<キチヌ> SEABREAM, yellowfin / *Acanthopagrus latus*

●M-2kg (4lb) クラス ●0.68kg ●広島県安芸郡海田町瀬野川 ●2023/5/5 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

<クロダイ> PORGY, black / *Acanthopagrus schlegelii*

●M-4kg (8lb) クラス ●2.50kg ●紀伊半島沿岸 ●2023/6/13 ●大島 英樹 ●クールビーンズ

CR

<イセゴイ> TARPON, oxeve / *Megalops cyprinoides*

●W-6kg (12lb) クラス ●1.00 kg ●鹿児島県奄美大島 ●2023/6/5 ●諫山 綾香 ●レギュラー会員

W

<ミナミクロダイ> SEABREAM, Okinawa / *Acanthopagrus sivicolus*

●W-10kg (20lb) クラス ●1.71kg ●沖縄県宮古島市下地島 ●2023/5/17 ●酒川 郁子 ●レギュラー会員

CR W



田村 紘一
<キチヌ 0.68kg>
釣ったんじゃない釣れたんだ
(キャスト練習中)



大島 英樹
<クロダイ 2.50kg>
その日は幸運の連続でした。悪天候の予報が好転し、普段は敬遠するポイントへ足が向かい、通常は絶対にやらないアプローチがタイミング良く決まったのです。「現場に立たなければ分からない事がある」



諫山 綾香
<イセゴイ 1.00kg>
フッキングした直後、すぐにジャンプジャンプ！バラさないかヒヤヒヤしましたが無事ランディング。国内でターポンが楽しめて嬉しかったです



酒川 郁子
<ミナミクロダイ 1.71kg>
干潟にのこった川すじにいました。あまりに強いのでトレバリーと間違えるほど

ALL TACKLE <オールタックル日本記録>

<イケカツオ> QUEENFISH, doublespotted / *Scomberoides lysan*

●オールタックル ●1.50kg ●鹿児島県屋久島尾ノ間 ●2023/6/22 ●鈴木 正輝 ●レギュラー会員

CR

<イシフエダイ> JOBFISH, small toothed / *Aphareus furca*

●オールタックル ●0.65kg ●東京都小笠原母島 ●2023/5/10 ●前田 稯 ●レギュラー会員 ●Hフォース丸

<イトヒキオキハギ> TRIGGERFISH, hairfin / *Abalistes filamentous*

●オールタックル ●0.50kg ●鹿児島県喜界島喜界空港沖水深60m ●2023/5/13 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●天人菊

<ガラバゴスサメ> SHARK, galapagos / *Carcharhinus galapagensis*

●オールタックル ●8.20kg ●東京都小笠原母島 ●2023/5/10 ●前田 稯 ●レギュラー会員

CR

<ギンサメ> CHIMAERA, silver / *Chimaera phantasma*

●オールタックル ●1.80kg ●神奈川県小網代沖水深201m ●2023/5/15 ●西野 勇馬 ●ファミリー会員 ●サン・リリー

<コクチバス> BASS, smallmouth / *Micropterus dolomieu*

●オールタックル ●2.72kg ●福島県猪苗代湖北岸 ●2023/5/4 ●石井 勝也 ●レギュラー会員 ●スキーター-ZX195

CR

<コトヒキ> TERAPON, jarbua / *Terapon jarbua*

●オールタックル ●0.72kg ●高知県室戸沖水深20m ●2023/6/17 ●竹村 浩昭 ●レギュラー会員 ●マック号(カヤック)

<コトヒキ> TERAPON, jarbua / *Terapon jarbua*

●オールタックル ●0.46kg ●沖縄県比謝川 ●2023/5/14 ●坂本 幸博 ●終身会員

CR

<ソウハチ> SOHACHI / *Hippoglossoides pinetorum*

●オールタックル ●1.05kg ●北海道浜厚真沖水深15M ●2023/6/16 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●釣船 あまちゃん

<タチガミフエフキ> TACHIGAMI-FUEFUKI / *Lethrinus longirostris*

●オールタックル ●3.34kg ●沖縄県宮古島バナリ干瀬沖水深60m ●2023/5/7 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●Sea-son's 新静丸

<ダントウボウ> BREAM, Wuchang / *Megalobrama amblycephala*

●オールタックル ●1.10 kg ●茨城県霞ヶ浦 ●2023/4/8 ●平井 忠 ●レギュラー会員

CR

<チカメキントキ> BULLSEYE, longfinned / *Cookeolus japonicus*

●オールタックル ●3.57kg ●山口県萩市見島八里ヶ瀬周辺 ●2023/5/22 ●久保 高広 ●レギュラー会員 ●さくら丸

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●オールタックル ●17.97kg ●茨城県利根川 ●2023/6/4 ●下畑 剣一郎 ●フィッシュ&フィンズ

CR

<ムネアカカチビ> EMPEROR, yellowlip / *Lethrinus xanthurus*

●オールタックル ●5.35kg ●鹿児島県屋久島町口永良部島 ●2023/5/13 ●山田 帝汰 ●レギュラー会員



CR

鈴木 正輝 <イケカツオ 1.50kg>

屋久島の磯で新月後の中潮の干潮から上げ潮に合わせてヒット。2週間前と同じ場所、あと40gで日本記録という惜しい個体を釣っていたのでキャッチと同時に可能性を実感



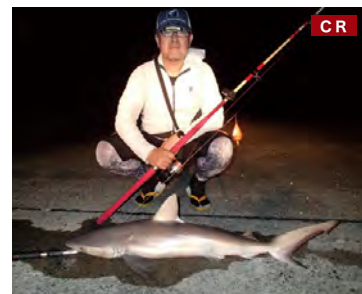
前田 穰 <イシフエダイ 0.65kg>

念願のゴムカヤックでの記録申請です。この魚は、同日に釣ったガラバゴスザメのエサとしました



浅野 俊吾 <イトヒキオキハギ 0.50kg>

夕方潮の流れが強く、ラインが斜めになり、一度ライン回収しようとした所、重みを感じました。引きはあまり強くありませんでした



CR

前田 穰 <ガラバゴスザメ 8.20kg>

初めてのエサ釣りでの申請です。エサは日本記録、世界記録に申請したイシフエダイです



西野 勇馬 <ギンザメ 1.80kg>

念願の「ギンザメ」で記録を取る事が出来ました！ これまで数多くの深海魚を釣ってきましたが、その中でも特にうれい種です



CR

石井 勝也 <コクチバス 2.72kg>

猪苗代湖で、巻いて日本記録を釣るなら春先と思っていた。数日前にも同じルアーでデカバスを釣っていたので自信はありました。自然に感謝



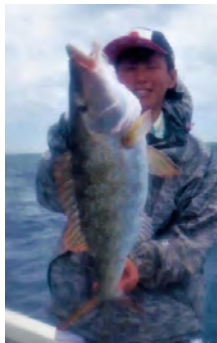
竹村 浩昭 <コトヒキ 0.72kg>

水深20M、干潮、オオモンハタとの混群



浅野 俊吾 <ソウハチ 1.05kg>

スーパーソウハチを求めて勇払マリーナへ行きました。当日はベタ風で釣日和。強い当たりがあった時、2枚ではなく1枚であって欲しいと願いました



坂本 幸博 <タチガミフエフキ 3.34kg>

エサがとられているか、粘ってみたいかの判断に迷う時、少し待っていたら大物がヒット。糸は細めなので注意しながらやりとりしたが、ロッドが軟調子なのでうまく浮かせることに成功しました



CR

平井 忠 <ダントウボウ 1.10kg>

人生初のダントウボウがまさかのオールタックル日本記録。ダメもとで入ったポイントで時間の許さず、エサを打ち続けて粘った甲斐がありました。ダメもととは言っても、真剣さが大事なようです



久保 高広 <チカメキントキ 3.57kg>

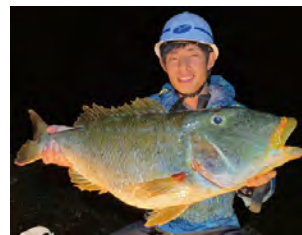
インチク仕掛けにてベタ底で突然の強い引き込みでした。中層までは、リールを巻けない程でした。取り込み時は、あまりの大きさに感無量でした



CR

下畑 剣一郎 <ハクレン 17.97kg>

ネットですくうときの重さにはびっくりしました。ファウルフックではなくてよかったです！



山田 帝汰 <ムネアカカチビ 5.35kg>

初魚種にて記録魚が釣れました

ALL TACKLE LENGTH RECORD <オールタックル・レンジスレコード>

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●レンジスレコード ●104cm(叉長) ●埼玉県荒川 ●2023/6/30 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

AL CR

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●レンジスレコード ●83cm(叉長) ●茨城県利根川 ●2023/6/4 ●下畑 剣一郎 ●フィッシュ&フィンズ

AL CR

<ビワコオオナマズ> CATFISH, Eurasian / *Silurus biwaensis*

●レンジスレコード ●108cm(全長) ●滋賀県琵琶湖北湖 ●2023/6/29 ●喜内 盛行 ●レギュラー会員 ●Fang 号

AL CR

<ブリ> BURI (Japanese amberjack) / *Seriola quinqueradiata*

●レンジスレコード ●58cm(叉長) ●島根県浜田市沖 ●2023/5/4 ●田村 紘一 ●レギュラー会員 ●田村丸

AL CR



AL
CR

竹内 尚哉
<ソウギョ 104cm(叉長)>

新たなソウギョポイントを探す調査かねての釣行。パンを撒き始めて40分ほど経過したところで魚が現れ、目の前にパンを浮かせると喰いつきバトル開始。今回は5000番リールに4号ライン、楽なやりとりで37分の戦いを制しました



AL
CR

下畑 剣一郎
<ハクレン 83cm(叉長)>

こんなに大きな魚を川で釣った経験がなかったので糸が切られなくてよかったです。ほかに切られた魚もいたので、次はもっと大きなハクレンをキャッチできるよう頑張ります



AL
CR

喜内 盛行
<ビワコオオナマズ 108cm(全長)>

前日夜中の雨の影響もあったので、11時から琵琶湖の北湖でビワコオオナマズを狙いました。ボトムから中層に浮く大鯰をイメージしてクラックベイトを選び、開始30分でバイト。一気に浮かせました



AL
CR

田村 紘一
<ブリ 58cm(叉長)>

イカがベイトと読んで、グロージグのただ巻きでヒットした魚です

ALL TACKLE FLY LENGTH RECORD <オールタックル・フライ・レンジスレコード>

<カムルチー> SNAKEHEAD/ *Channa argus*

●フライ・レンジスレコード ●68cm(全長) ●広島県東広島市黒瀬川 ●2023/6/19 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

FAL CR

<ギンブナ> GOLDFISH, Asian / *Carassius auratus langsdorffii*

●フライ・レンジスレコード ●31cm(叉長) ●広島県山県郡聖湖 ●2023/5/7 ●田村 紘一 ●レギュラー会員

FAL CR

<ブラウントラウト> TROUT, brown / *Salmo trutta*

●フライ・レンジスレコード ●62cm(叉長) ●栃木県中禅寺湖 ●2023/6/5 ●大和 秀文 ●レギュラー会員 ●レークオカジン号

FAL CR



FAL
CR

田村 紘一 <カムルチー 68cm(全長)>
夕方、ナマズ狙いのバスバグにバコーンと出ました



FAL
CR

田村 紘一 <ギンブナ 31cm(叉長)>
竿先を水面から上げ、フライラインのたるみを利用したデッドスローでヒット



FAL
CR

大和 秀文
<ブラウントラウト 62cm(叉長)>

六月の中禅寺湖、薄明。巨大な満月が沈んでゆく山側の入り江に向け舵を切りました。この出会いをYouTubeチャンネル「@healing and fishing」にアップロードしました。不思議で素敵な物語を皆様と共有できると嬉しいです

JUNIOR RECORD <ジュニア日本記録>

<オオクチバス> BASS, largemouth / *Micropterus salmoides*

●M/ジュニア ●4.47kg ●滋賀県琵琶湖 ●2023/3/25 ●西堀 頼 ●ジュニア会員 ●スキーター-FXR20

J

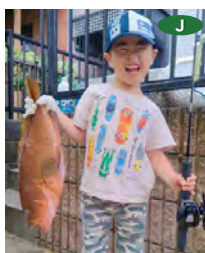
<キジハタ> GROUPER, Hong Kong / *Epinephelus akaara*

●M/ジュニア ●2.21kg ●島根県隠岐郡西ノ島沖 ●2023/5/4 ●木下 煌生 ●ジュニア会員 ●優心

J



西堀 頼
<オオクチバス 4.47kg>
くもり、風は穏やか、水深5.5m、水温12.9℃。ボトムから2m浮いた所にこのバスがいました



木下 煌生
<キジハタ 2.21kg>
魚の引きが強かった!!



5LB OVER CLUB <5ポンド オーバークラブ>

<クロダイ> PORGY, black / *Acanthopagrus schlegelii*

●4kg(8lb)クラス ●2.50kg ●紀伊半島沿岸 ●2023/6/13 ●大島 英樹 ●クールビーンズ

CR



大島 英樹
<クロダイ 2.50kg>
(事務局より:日本記録・海水のフライフィッシングでご紹介したクロダイ2.50kgと同じ魚です。コメントはそちらをご覧ください)



10LB SEABASS CLUB <10ポンド シーバスクラブ>

<スズキ> SEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

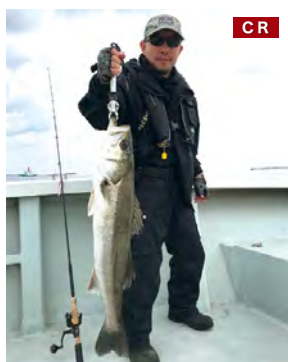
●10g(20lb)クラス ●4.75kg ●茨城県神栖市鹿島港 ●2023/5/14 ●猶原 正和 ●サバロ ●ARCADIA

CR

<スズキ> SEABASS, Japanese (suzuki) / *Lateolabrax japonicus*

●24g(50lb)クラス ●4.58kg ●島根県松江市中海 ●2023/6/13 ●猶原 正和 ●サバロ ●AMATERAS

CR



猶原 正和
<スズキ 4.75kg>
船縁まで殆ど抵抗なく上がってきたので小さい魚かと思っていたら、リーダーが見える辺りからいきなり引きはじめ、巻き取ったふんのラインくらい出されました。予想外の10lbオーバーだったので嬉しかったですね



猶原 正和
<スズキ 4.58kg>
検量した後、タグ打ち前に一度水に戻して弱らせているように思っていると、船長が「やります」と申し出てくれましたが「無事リリースできました」と言われて「あっ」と思いました。この魚にタグは付いていません

METER OVER CLUB <メーターオーバークラブ>

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●10kg(20lb)クラス ●102cm(全長) ●茨城県利根川 ●2023/6/4 ●下畑 剣一郎 ●フィッシュ&フィンズ

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●4kg(8lb)クラス ●118cm(全長) ●埼玉県元荒川 ●2023/6/15 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idellus*

●8kg(16lb)クラス ●110cm(全長) ●埼玉県荒川 ●2023/6/30 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

CR

<ビワコオオナマズ> CATFISH, Eurasian / *Silurus biwaensis*

●24kg(50lb)クラス ●108cm(全長) ●滋賀県琵琶湖北湖 ●2023/6/29 ●喜内 盛行 ●レギュラー会員 ●Fang 号

CR



下畑 剣一郎
<ハクレン 102cm>
(事務局より:日本記録・オールタックルでご紹介したハクレン17.97kgと同じ魚です。コメントはそちらをご覧ください)



竹内 尚哉
<ソウギョ 118cm>
6月15日(木)、淡水五目釣りという名のソウギョ狙いで元荒川釣行。昼から小雨がパラつきはじめたタイミングでソウギョが出現。寄せては走られを繰り返すも2号ラインで耐え、1時間7分のファイトを終えました。僕にとってお初となるソウギョは全長118cmの大型でした



竹内 尚哉
<ソウギョ 110cm>
(事務局より:日本記録・レンジスレコードでご紹介したソウギョ104cmと同じ魚です。コメントはそちらをご覧ください)



喜内 盛行
<ビワコオオナマズ 108cm>
(事務局より:日本記録・レンジスレコードでご紹介したビワコオオナマズ108cmと同じ魚です。コメントはそちらをご覧ください)



審査員養成講座 ルールクイズ**正解**発表

先ごろ実施いたしました、IGFAルールクイズの正解を発表いたします。

資格を取得なさった方、これから取得を考えられている方のみならず、

記録申請を目指していいらっしゃる方にもたいへんためになる内容が含まれております。

ご自分のジャンル以外のクイズも、ぜひ参考になさってください。



い台や構造物から釣る時は、この長さ制限は適用されない」と確認いたしました。

【問題 4】

ロッドが最低寸法より短くなったり、その性能をひどく減じるような方法で折れた場合でもこれ以外はIGFAルールで魚をキャッチできれば記録申請できる。

正解=X 「海と淡水のフィッシング・ルール」→「失格となる状況」第1項に、ロッドが最低寸法より短くなったり、その性能をひどく減じるような方法で折れた時には失格と明記されています。

【問題 5】

リーダーの長さとはルアー、フック、または他の用具を含めた全体の長さとして定義されるため、テンピンの長さも含まれる。

正解=● 「海と淡水のフィッシング・ルール」→「釣具の規定」→「C. リーダー」に上記内容が明記されており、「F. ベイトフィッシング(エサ釣り)」に使用するフック」第4項の図にもテンピンの長さはリーダーに含まれると表記されています。

A 共通問題

【問題 1】

魚がベイトまたはルアーにストライクしたら、アングラーは他からの助けを借りることなく魚をフックにかけ、ファイトし、取り込まなければならない。

正解=● 「海と淡水のフィッシング・ルール」→「釣りの規定」第1項に上記内容が明記されています。今回はルールの大原則に触れていますが、一部例外も規定で認められています。

【問題 2】

岸釣りまたはウェーディングの釣りをしているアングラーの取り込みを助ける人は、リーダーを掴む、ネットで拘う、あるいはギャフを掛ける際、アングラーからロッド2本分以内の距離にいないといけない。

正解=X 「海と淡水のフィッシング・ルール」→「釣りの規定」第6項に、ロッド1本ぶん以内の距離にいないといけないと明記されています。

【問題 3】

足場の高い栈橋から、記録申請したい魚を釣り上げたい。その場合は取り込みに使用するネットの全長が2.5mでも使用できる。

正解=● ただしルールブックの表記が曖昧だったため、どちらでも正解とさせて頂きました。改めてIGFAに確認したところ「海と淡水のフィッシング・ルール」→「釣具の規定」→H. その他の用具」第3項に、ギャフおよびネットは全長が2.44m以内と定義されていますが、「橋、栈橋、その他の高

B 選択問題(ビッグゲームの部)

【問題 6】

37kgテストのダブルラインをいちいち編み直すのは面倒なので、予め別のライン(同じ強度)で4mのダブルラインを作っておき、スイベルで交換が容易にできるようにした。

正解=X 「海と淡水のフィッシング・ルール」→「釣具の規定」B. ダブルラインの第1項に「ダブルラインは、フィッシングラインそのものをダブルにしたものでなければならない」と規定されています

【問題 7】

キャストイングロッドをトローリングロッドに改造するため、ロッドティップを150cm、バットを50cmの長さに切断して作った。

正解=● 「海と淡水のフィッシング・ルール」→「釣具の規定」D. ロッドの第2項に「ロッドティップの長さは101.6cm以上、ロッドバットの長さは68.58cm以内であること」と規定されています。

【問題 8】

魚とのファイト中にハンドルを巻く腕が疲れたので、もう一方の手でラインを手繰ってリールにラインを巻き取った。

正解=X 「海と淡水のフィッシング・ルール」→「失格となる行為」第4項に「ラインを手繰って魚を取り込む行為や手釣りは禁止されている」と規定されています。

【問題 9】

カジキの取り込みに際し魚体を傷つけないために、ギヤフの代わりに1.9mの棒に50cm長の荷造り用ポリエステル平テープを裂いた束を装着し、ビルに絡めてキャッチした。トータルの長さが240cmとギヤフの長さ規定内なので問題無い。

正解=X 「海と淡水のフィッシングルール」→「釣り具の規定」H.その他の用具第4項にて「エンタングリング(魚を絡め取る)用具は、フックの有無にかかわらず禁じられている。ベイトイングまたはフッキング、ファイティング、ランディングを含むいかなる目的の為に使用してはいけない」と規定されています。

【問題 10】

魚がルアーにストライクしてラインを引き出している状態で、クルーがロッドをロッドホルダーから引き抜いてアングラーに手渡した。アングラーはその後自らドラグを上げてフックアップしてファイトに入ったからルールに則っている。

正解=X 「海と淡水のフィッシングルール」→「釣り具の規定」第2項にて「ロッドホルダーで固定している時に、魚がベイトまたはルアーにストライクしたら、釣り人はできるだけ速やかにロッドをホルダーから外さなければならない」と規定されています。

(ルアー、淡水、岸釣り、磯釣り、沖釣りの部)

【問題 6】

ジグヘッドリグのハリ先のないワーム取り付け部分に、ワーム(ソフトベイト)をセットした場合、魚が掛かったときに自由に振れ動くな、ギャングフックはルアーに差し込んだり、本体に固定したりすることができる。

正解=● 海と淡水のフィッシングルール→「釣具の規定」→「G. フックおよびルアー」第2項に「魚が掛かったときに自由に触れ動くな、ギャングフックはルアーに埋め込んだり本体に固定したりすることができる」と明記されています。

【問題 7】

6kg(12lb)ラインを使用し、ある河川でヤマメを釣って記録申請した。その時使用したリーダーは、フックの全長を含めて4.57mであった。

正解=X 「海と淡水のフィッシングルール」→「釣具の規定」→「C. リーダー」→「淡水魚」において、淡水魚用のリーダーはすべてのラインクラスにおいて1.82m以内と明記されています。

【問題 8】

ラインを手繰って魚を取り込む行為や手釣りは禁止されているが、ボートから釣る場合は、リーダーが同乗者の手に掴めるところにくるか、リーダーの端がロッドティップまで巻き上げられた時、一人または複数の人がリーダーを持つことができる。

正解=● 「海と淡水のフィッシングルール」→「釣り具の規定」第6項に明記されています。またラインを手繰って魚を取り込む行為や手釣りは禁止されている件については、「失格となる行為」第4項に記載がございます。

【問題 9】

アシストフックとは、モノフィラメント、マルチフィラメント、ワイヤーなどの「リード」を介してルアーに接続されるフックのことであるが、ギャングフックもリードを介してアシストフックとして使用すればルール上OKである。

正解=X 「フック配列の実例(アシストフックに関するガイド)」の説明文や写真に、アシストフックとして、ダブルフックやトレブルフックを使うことはできないと明記されています。つまり使用できるのはシングルフックのみとなります。

【問題 10】

ルアーフィッシングで記録申請する場合、必ずしもルアーを送付する必要はないが、ルアーが写った写真もしくはスケッチを添付しなければならない。

正解=● 「海と淡水のフィッシングルール」→「釣具の規定」→「G. フック及びルアー」の第2項に、記録申請時にはルアーの写真もしくはスケッチを添付することと明記されています。

(フライフィッシングの部)

【問題 6】

フライフィッシングの記録申請のためには、ギヤのつきたいいわゆる「マルチプライヤーリール」を使うことができない。

正解=X フライフィッシング・ルール→釣具の規定→D. リールに、「……ギヤ比およびドラッグ機構について制限はないが、釣り人が不当な利益を受けると考えるものは使用できない」とあり、マルチプライヤーリールは使うことができます。。

【問題 7】

クラスティベットの長さ規定に、上限はない。

正解=● フライフィッシング・ルール→釣具の規定→B. リーダーに「クラスティベットの長さは38.10cm以上とする(両端に設けたノットの内側を測定)……クラスティベットに長さの上限はない」とあります。

【問題 8】

ボートからの釣りで、ティーザーを曳き魚を寄せて来る場合、エンジンのギヤをニュートラルに入れてキャストしておきさえすれば、その後でギヤを入れてフライを動かしても良い。

正解=X フライフィッシング・ルール→釣具の規定のなかに「魚にフライをキャストするとき、およびリトリープの間は、ボートのギヤを完全に外し、ニュートラルか停止の位置しておかなければならない」とありますので、これは明確にIGFAルール違反となります。

【問題 9】

フライロッドは、市販品であれば5フィート台のものも使うことができる。

正解=X フライフィッシング・ルール→釣具の規定→C. ロッドの項に、「ロッドの全長は1.82m(6フィート)以上とする」とありますので、5フィート台のロッドは使えません。

【問題 10】

浅場のウエーディング釣りで、足下まで寄せてきた魚を、フィッシングガイドがボートで背後の浅場に追い込んでランディングした。このようにして釣りあげた魚の記録申請はできない。

正解=● フライフィッシング・ルール→失格となる行為・状況の項に「8. 魚が正常に泳ぐ能力を奪うために、ボートや道具を使用して魚を浜に追い上げたり、浅瀬に追い込んだりしてはならない」とありますので、これは許されていません。

大会史上最多の4勝をマーク チーム・マハ口の快挙



2023年7月21日から23日を本戦として開催された第45回JIBTは、初日のみ風がやや強かったものの日を追うことに収まり、久しぶりの全日開催となりました。 **釣果も好調！**



やや風がありましたが、安全第一でスタート！

1日目

1週間前には水温が低い状態であったものの、黒潮からの水が差し込むなどにより下田沖は28℃台、カジキ類全般が生息しやすい水温に上昇していました。例年通り午前7時30分のスタートフィッシングのあと、最初のヒットコールが午前8時19分にチームマハ口(谷本聖志キャプテン)から寄せられました。チームマハ口は、このクロカジキをバラすことなく午前8時36分に推定150kgへのT&R(標識装着後にリリース)を成功させ、大会におけるファーストマーリンの栄誉を得ることとなります。その後も順調に各艇がヒットコールを上げ、最終的にはカジキ類のT&Rを成功させたのが9チーム・9尾、キャッチを達成したのが7チーム・7尾となりました。残念ながら1件の失格があったものの、計15チームがポイントを獲得しました。

2日目

午前7時00分にスタートフィッシング。最初のヒットコールは7時35分にアングレックス(藤代洋キャプテン)でしたが、惜しくもフックオフ。その後5艇が続けてヒットとなりましたが、その中で最初にカジキをゲットしたのは、昨日もファーストマーリンを手中に収めているチームマハ口。推定40kgのマカジキにT&Rを行い、その後は残りの4艇ともT&Rやキャッチで後を追う形です。各艇のヒットコールは順調に続き、最終的には28ヒット、T&R成功数が10尾、ランディングが3尾の計13尾が本日の釣果。その内訳はクロカジキ、マカジキ、バショウカジキであり、水温が高いことがわかる魚種構成となりました。

大会2日目を終えた時点での各チームの成績は、チームマハ口が3尾(マカジキ1尾、クロカジキ2尾)と固め打ちして計4尾の釣果となり、他のチームを引き離す結果に。また、チームコバルトHOUTA(豊川泰キャプテン)は午前10時22分のヒットのあとロングファイトを展開、およそ5時間半後にキャッチ。検量で129.4kgと計測されたクロカジキが2日目の最大魚となりました。

3日目

JIBTは、好天のまま最終日を迎えました。昨日と同じ午前7時00分にスタートフィッシング、最初のヒットコールは、8時11分にHAUNTS CALEDAのGLORY(棟方良忠キャプテン)から寄せられましたが、最初の釣果となったのは8時14分にヒットし8時28分にクロカジキ推定60kgにT&Rを行ったMISS BAGHEERA(園川鉄夫キャプテン)でした。カジキ類のヒット数は19回を数え、各艇がファイトを繰り広げます。その中でもMAVERICK FISHING CLUBのエリカからは良いサイ

ズのカジキをランディングした報告が寄せられ、大会本部での審査にて今回の大会で最大魚となる167.8kgのクロカジキを釣り上げたことが認定されました。この最大魚を含めた本日の釣果は、T&R3尾およびキャッチ5尾、全てがクロカジキでした。

大会3日間の最終結果は、マカジキ1尾およびクロカジキ3尾の計4尾全てをT&RしたNo.22のチームマハ口(谷本聖志キャプテン)が優勝し、JIBT史上初の4度目の優勝を飾りました。2位は2日目に約5時間のファイトを制したチームコバルト HOUTA、3位は初日に30lbラインでクロカジキのT&Rに成功したJMCです。表彰パーティーは、今回も下田港の一面をお借りし野外にてを行いました。選手約570名、関係者の皆さん約150名、合計700名を超えるパーティーとなり、大いに盛り上がりました。

開催期間:2023.7.21~23

出場チーム:107チーム

選手数:572名

出場艇:107艇(オーナーボート:97、チャーターボート:10)

ストライク数:76(カジキのみ)

釣果合計:37尾(クロカジキ31、マカジキ4、バショウカジキ2)

タグ&リリース:22尾 キャッチ:15尾

団体総合部門

優勝 チーム・マハ口 690P

2位 チーム・コバルト HOUTA 308.8P

3位 JMC 260P

個人総合部門

優勝 小瀬村 明(チーム マハ口) 690P

2位 福原 大介(チームコバルト HOUTA) 308.8P

3位 泰松 大起(JMC) 260P

チャーターボート船長賞 八倉丸 山本浩史

西川龍三賞(最大魚賞)中尾 浩(MAVERICK FISHING CLUB)

下田海上保安部長賞 夢高



初日のファイトシーン。ヒジリゴリラ2に乗るチーム夢高さんです



Maverick Fishing Club は最大魚 167.8kgを持ち込みました



総合優勝の美酒が待つ、チーム・マハロの皆様



チャーターボートキャプテン賞を受けた山本浩史船長は、2尾のクロカジキをキャッチ

大会史上最多の4勝をマーク チーム・マハロの快挙



No.	チーム名	チームNo.	アングラー	ボート	魚種名	結果	重量	ライン
1	チーム マハロ	22	小瀬村 明	MAHALO	クロカジキ	T&R	推定150kg	50
2	ブルーウォーター	7	藤田 原野	Blue Water	クロカジキ	キャッチ	104.2kg	30
3	コアマーリンクラブ	18	本田 寿浩	コアドリーム	クロカジキ	T&R	推定80kg	50
4	ホワイトタイガー	39	赤堀 大輔	ホワイトタイガー	クロカジキ	T&R	推定100kg	50
5	ビルG	105	林田 敏誠	番匠高宮丸	クロカジキ	キャッチ	110.8kg	50
6	大和爆釣會	75	奥住 利明	DAIWA	バショウカジキ	T&R	推定30kg	80
7	鳥羽オリンピア	63	谷本 明輝	オリンピア III	クロカジキ	キャッチ	109.4kg	80
8	カイポイ	74	岡 貞次	Kaipoi	クロカジキ	T&R	推定80kg	50
9	BLACK PEARL FC	28	坂井 寿士	BLACK PEARL II	クロカジキ	T&R	推定150kg	50
10	チームイグレック	38	西山 昭浩	IGURECK	クロカジキ	キャッチ	118kg	50
11	シエラ	111	清水 孝浩	若宮丸	マカジキ	T&R	推定30kg	50
12	夢高	55	山崎 夢高	ヒジリゴリラ2	クロカジキ	キャッチ	71kg	50
13	JMC	49	泰松 大起	JMC	クロカジキ	T&R	推定100kg	30
14	アイエヌジーフィッシングクラブ	23	高橋 一郎	アイエヌジー	クロカジキ	T&R	推定80kg	50
15	Q-TEN Mariners	109	加藤 竜太	八倉丸	クロカジキ	キャッチ	107.8kg	80
16	SEA DOG	88	佐々木 功真	Sea dog	クロカジキ	失格		50
17	TOA LINE	96	内海 憲市	TOALINE IV	クロカジキ	T&R	推定150kg	50
18	マーベラス	56	小柳 昌文	MARVELOUS	クロカジキ	キャッチ	112kg	80
19	Team ルアウ	110	平田 康雄	すさき丸	マカジキ	T&R	推定90kg	50
20	チーム マハロ	22	小瀬村 明	MAHALO	マカジキ	T&R	推定40kg	50
21	TEAM フリーダム	98	渡邊 貴文	FREEDAM IV	クロカジキ	T&R	推定80kg	50
22	チーム マハロ	22	小瀬村 明	MAHALO	クロカジキ	T&R	推定100kg	50
23	マーメイドAC (B)	104	泉 勇也	光明丸	クロカジキ	T&R	推定120kg	80
24	チーム マハロ	22	小瀬村 明	MAHALO	クロカジキ	T&R	推定130kg	50
25	チームコバルト HOUTA	31	福原 大介	HOUTA	クロカジキ	キャッチ	129.4kg	30
26	TEAM GODDESS	41	小山 健太郎	STATUE of LIBERTY	クロカジキ	T&R	推定90kg	50
27	TRUE BLUE FC	20	横塚 誠	True Blue II	マカジキ	T&R	推定40kg	50
28	アニバーサリー	42	山下 健一	Anniversary	バショウカジキ	T&R	推定30kg	50
29	MAVERICK FISHING CLUB	32	中尾 浩	エリカ	クロカジキ	キャッチ	60kg	50
30	HAUNTS CALEDA	82	棟方 颯人	GLORY	クロカジキ	キャッチ	111.4kg	50
31	MISS BAGHEERA	24	小川 湯代	MISS BAGHEERA	クロカジキ	T&R	推定60kg	50
32	チーム江戸徳	8	熊谷 圭祐	江戸徳	クロカジキ	T&R	推定85kg	50
33	チーム SUNRISE	51	杉崎 吉則	SUNRISE II	クロカジキ	T&R	推定110kg	50
34	Q-TEN Mariners	109	鈴木 真二	八倉丸	クロカジキ	キャッチ	104.2kg	80
35	MAVERICK FISHING CLUB	32	中尾 浩	エリカ	クロカジキ	キャッチ	167.8kg	130
36	TEAM PLATINUM	46	塚本 学	PLATINUM	クロカジキ	キャッチ	89.4kg	80
37	Team ルアウ	110	平田 康雄	すさき丸	クロカジキ	キャッチ	80.4kg	50

※大会で釣り上げられたカジキ類を時系列で並べた全記録です



およそ60% のカジキが標識(タグ)を付けて再放流されました。
私たちができる科学への貢献です

ASSOCIATE MEMBER LIST

賛助会員メンバーズ・リスト



賛助会員募集

「いい釣りをいつまでも。」をスローガンに、スポーツフィッシングの普及を目指すJGFAをぜひサポートしてください。

- 特典
1. 賛助会員主催のイベントを後援します。(ただし後援規定に基づくイベント)
 2. 実費プラス手数料で、会社パンフ、アンケートなどを会員に発送するDMサービスをご利用いただけます。
 3. JGFAイヤーブックに紹介記事が載ります。
 4. JGFA NEWS (年4回発行の会報) とホームページにロゴマークが載ります。
 5. 代表者と担当者の2名は、JGFA及びIGFAの会員として登録されます。
 6. 代表者は、JGFAのパーティーにご招待します。

会費 1口 100,000円(1口以上)

備考 代表者と担当者以外で、会員登録を希望する企業内の方は、年会費6,000円を加算いただければクラブメンバーと同様の特典が得られます。

問い合わせ先: JGFA事務局 ☎03-6280-3950

タグ購入代金カンパにご協力を

皆様がお使いのアンカー式スバゲティタグもダートタグSも、協会が購入する原価でセットあたり2000円します。年間500セットほど皆様に配布いたしておりますので、単純計算で100万円、ちょっとした金額です。そこで皆様にお願いです。クラブ主催のトーナメント、パーティ、忘年会などの機会を捉えて募金箱を回し、「タグ&リリース活動資金カンパ」を行っていただけませんか。もちろん、個人や企業の皆様からのご寄付もよろこんでお受けいたします。ゲームフィッシュの生態解明のため、釣り人ができる大きな貢献であるタグ&リリースをこれからも継続し、私たちが資源保全に真剣であることを示すため、ぜひご協力をお願いいたします。お振込先の情報は以下のとおり、なにとぞご検討を。

銀行名: みずほ銀行 恵比寿支店
口座名: 「タグ アンド リリース活動資金」
口座No: (普) 1561275

タグ&リリース寄付者リスト

タグ&リリース活動資金にご寄付いただきましてありがとうございました。心よりお礼申し上げます。引き続き募集しておりますので、ご協力くださいますよう、お願いいたします。(順不同・敬称略)

タグ&リリース寄付者リスト		
2023/5/17	長 鋪 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2023/5/31	長 鋪 毅一郎(TRUE BLUE Fishing Club)	19,000
2023/7/29	R004345 福岡 勝	3,000
合計		41,000